



システム イベント ログの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- [システム イベント ログ, 1 ページ](#)
- [各サーバのシステム イベント ログの表示, 2 ページ](#)
- [シャーシ内のサーバのシステム イベント ログの表示, 2 ページ](#)
- [SEL ポリシーの設定, 3 ページ](#)
- [サーバのシステム イベント ログの管理, 5 ページ](#)

システム イベント ログ

システム イベント ログ (SEL) は、NVRAM 内の CIMC に存在します。過不足の電圧、温度イベント、ファン イベント、BIOS からのイベントなど、ほとんどのサーバ関連イベントが記録されます。SEL は、主にトラブルシューティングのために使用します。

SEL ファイルのサイズは約 40KB で、ファイルがいっぱいになるとそれ以上イベントを記録できません。新たなイベントを記録できるようにするには、ファイルの中身をクリアする必要があります。

SEL ポリシーを使用して、SEL をリモートサーバにバックアップできます。また、必要に応じて、バックアップ操作後に SEL をクリアすることもできます。バックアップ操作は、特定のアクションに基づいて起動するか、定期的に行うことができます。SEL のバックアップやクリアは、手動で行うこともできます。

バックアップ ファイルは、自動的に生成されます。このファイル名の形式は、`sel-SystemName-ChassisID-ServerID-ServerSerialNumber-Timestamp` です。たとえば、`sel-UCS-A-ch01-serv01-QCI12522939-20091121160736` となります。

各サーバのシステム イベント ログの表示

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Equipment] タブをクリックします。
 - ステップ 2 [Equipment] タブで、[Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] を展開します。
 - ステップ 3 システム イベント ログを表示するサーバをクリックします。
 - ステップ 4 [Work] ペインの [SEL Logs] タブをクリックします。
Cisco UCS Manager によってサーバのシステム イベント ログが取得され、イベントのリストが表示されます。
-

シャーシ内のサーバのシステム イベント ログの表示

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Equipment] タブをクリックします。
 - ステップ 2 [Equipment] タブで、[Equipment] > [Chassis] > [Chassis Name] を展開します。
 - ステップ 3 [Work] ペインの [SEL Logs] タブをクリックします。
Cisco UCS Manager によってサーバのシステム イベント ログが取得され、イベントのリストが表示されます。
 - ステップ 4 [Server] テーブルで、システム イベント ログを表示するサーバを選択します。
Cisco UCS Manager によってサーバのシステム イベント ログが取得され、イベントのリストが表示されます。
-

SEL ポリシーの設定

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Equipment] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] タブで、[Equipment] ノードを展開します。
- ステップ 3 [Work] ペインの [Policies] タブをクリックします。
- ステップ 4 [SEL Policy] サブタブをクリックします。
- ステップ 5 (任意) [General] 領域で、[Description] フィールドにポリシーの説明を入力します。この領域の他のフィールドは読み取り専用です。
- ステップ 6 [Backup Configuration] 領域で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[プロトコル] フィールド	<p>リモートサーバとの通信時に使用するプロトコル。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [FTP] • [TFTP] • [SCP] • [SFTP] • [USB A] : ファブリック インターコネクト A に挿入された USB ドライブ。 • [USB B] : ファブリック インターコネクト B に挿入された USB ドライブ。
[Hostname] フィールド	<p>バックアップ設定が存在する場所のサーバのホスト名または IP アドレス。 IPv4 または IPv6 アドレスではなくホスト名を使用する場合、 で DNS サーバを設定する必要があります。 Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていないか、 DNS 管理が [ローカル] に設定されている場合は、 Cisco UCS Manager で DNS サーバを設定します。 Cisco UCS ドメイン Cisco UCS Central に登録されていないか、 DNS 管理が [グローバル] に設定されている場合は、 Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。</p> <p>(注) バックアップファイルの名前は、Cisco UCS によって生成されます。名前は次の形式になります。</p> <pre>sel-system-name-chchassis-id- servblade-id-blade-serial -timestamp</pre>

名前	説明
[Remote Path] フィールド	<p>必要に応じて、リモートサーバ上のファイルの絶対パスを指定します。</p> <p>SCPを使用する場合、絶対パスは常に必要です。他のプロトコルを使用する場合は、ファイルがデフォルトのダウンロードフォルダにあれば、リモートパスを指定する必要はありません。ファイルサーバの設定方法の詳細については、システム管理者に問い合わせてください。</p>
[Backup Interval] ドロップダウンリスト	<p>自動バックアップ間の待機時間。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Never] : 自動 SEL データ バックアップを実行しません。 • [1 Hour] • [2 Hours] • [4 Hours] • [8 Hours] • [24 Hours] • [1 Week] • [1 Month] <p>(注) システムによって自動バックアップを作成する場合は、[Action] オプション ボックス内の [Timer] チェックボックスがオンになっていることを確認してください。</p>
[Format] フィールド	<p>バックアップファイルに使用する形式。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Ascii • 2 進数
[Clear on Backup] チェックボックス	<p>オンにすると、Cisco UCS はバックアップ後にすべてのシステム イベント ログをクリアします。</p>
[ユーザ] フィールド	<p>システムがリモートサーバへのログインに使用する必要のあるユーザ名。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。</p>
[パスワード] フィールド	<p>リモートサーバのユーザ名のパスワード。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。</p>

名前	説明
[Action] オプション ボックス	<p>オンにした各チェックボックスのイベントが発生したとき、システムによって SEL バックアップが作成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Log Full] : ログが許容される最大サイズに到達。 • [On Change of Association] : サーバとそのサービス プロファイルの間のアソシエーションが変化。 • [On Clear] : システム イベント ログがユーザによって手動でクリア。 • [Timer] : [Backup Interval] ドロップダウン リストで指定された時間間隔に到達。
[Reset Configuration] ボタン	バックグラウンドの設定情報をリセットするには、このボタンをクリックします。

ステップ 7 [Save Changes] をクリックします。

サーバのシステム イベント ログの管理

システム イベント ログの1つ以上のエントリのコピー

このタスクでは、サーバまたはシャーシの [SEL Logs] タブからサーバのシステム イベント ログが表示されていることを前提にしています。

手順

- ステップ 1** Cisco UCS Manager GUI によって [SEL Logs] タブにシステム イベント ログが表示されたら、マウスを使用してシステム イベント ログからコピーするエントリを強調表示します。
- ステップ 2** [Copy] をクリックして、強調表示されたテキストをクリップボードにコピーします。
- ステップ 3** 強調表示されたテキストをテキスト エディタまたは他のドキュメントに貼り付けます。

システム イベント ログの印刷

このタスクでは、サーバまたはシャーシの [SEL Logs] タブからサーバのシステム イベント ログが表示されていることを前提にしています。

手順

-
- ステップ 1** Cisco UCS Manager GUIの [SEL Logs] タブにシステム イベント ログが表示されたら、[Print] をクリックします。
- ステップ 2** [Print] ダイアログボックスで次の手順を実行します。
- (任意) デフォルト プリンタ、あるいはその他の任意のフィールドまたはオプションを修正します。
 - [Print] をクリックします。
-

システム イベント ログのリフレッシュ

このタスクでは、サーバまたはシャーシの [SEL Logs] タブからサーバのシステム イベント ログが表示されていることを前提にしています。

手順

Cisco UCS Manager GUIの [SEL Logs] タブにシステム イベント ログが表示されたら、[Refresh] をクリックします。

Cisco UCS Manager はサーバのシステム イベント ログを取得し、アップデートされたイベント リストを表示します。

システム イベント ログの手動バックアップ

このタスクでは、サーバまたはシャーシの [SEL Logs] タブからサーバのシステム イベント ログが表示されていることを前提にしています。

はじめる前に

システム イベント ログ ポリシーを設定します。手動によるバックアップ操作では、システム イベント ログ ポリシーで設定されたリモート宛先を使用します。

手順

Cisco UCS Manager GUIの [SEL Logs] タブにシステム イベント ログが表示されたら、[Backup]をクリックします。

Cisco UCS Manager は、SEL ポリシーで指定された場所にシステム イベント ログをバックアップします。

システム イベント ログの手動クリア

このタスクでは、サーバまたはシャーシの [SEL Logs] タブからサーバのシステム イベント ログが表示されていることを前提にしています。

手順

Cisco UCS Manager GUIの [SEL Logs] タブにシステム イベント ログが表示されたら、[Clear]をクリックします。

(注) SEL ポリシーの [Action] オプション ボックスで [Clear] がイネーブルになっていると、この処理によって自動バックアップが実行されます。

